

## 活動報告



2009年度からご支援いただいていたスマラン市タバック村のマングローブは住民グループによる適切に管理され、コミュニティの養殖場周辺と浸食が著しかった海岸付近に植樹したマングローブは、すくすくと成長し、かつて土がむき出しのままの沿岸部が広大な緑地になりつつあります。多くの野鳥が飛来し豊かな生態系が育まれつつあり、バードウォッチングのポイントとしても人気が出ています。マングローブの森へのエコツアー客も増えており、2016年度は、タバック村の女性たちがエコツアー客にマングローブの森・海の幸を提供する簡易

食堂をオープンしました。

一方、プカロンガン市では、市が運営するマングローブセンターにおいて、ビジターへのガイドや環境教育が十分に行われていない状況にあることから、今一度行政と住民グループの連携体制の改善、関わっている住民グループへのガイド研修等を行いました。また、隣接するプカロンガン県へのマングローブ植林の可能性調査を実施し、2017年度の植林に向けジュルックサリ村での住民研修を開始しました。



成長したマングローブにより  
豊かな生態系を育み始めた養殖場(タバック村)



マングローブ苗木のモニタリング



女性グループによるマングローブエコツアーのための簡易食堂





子ども達へのマングローブ環境教育



2/23 東京の報告会

## 2016年度活動

- 苗木植林:プカロンガン市にて25000本を植林
- スマラン市タパック村の女性グループの支援:女性の保全活動への参加を促進するため、マングローブエコツアー用簡易食堂の開店準備、オープンを支援。
- スマラン市マングローブ環境教育:ブックレットの作成(小学生)、小学校でのデモンストレーション授業を実施。
- プカロンガン市マングローブセンターのサポート:行政関係機関と住民グループの連携のコーディネート、ビジター向けの住民ガイドの育成
- 新たな植林地の調整:プカロンガン県ジュルックサリ村における植林の検討、住民研修の開始
- 2月23日、東京でこれまでの活動報告会を開催

海面上昇や高潮等による海水の浸水被害が深刻なプカロンガン市沿岸部において、2015年度からコミュニティレベル及び行政の「損失と被害」の実態調査を行っています。調査結果は、行政や住民と共有し、住民主体の持続可能な適応対策の促進と、住民ニーズに即した行政による支援体制づくりを開始しました。急速な環境変化に当惑する住民はもちろん、現地行政も、気候変動による「損失と被害」への理解は十分ではありませんが、緊迫

する被害の深刻化に、早急に対策を必要としていることは認識しており、今後、行政と連携して、同市でも最も被害の大きい地域のひとつであるバンドウンガン村を中心にパイロットプロジェクトを実施していきます。本プロジェクトは、国際的にも未だ先例の少ない気候変動影響に対する「損失と被害」のための地域レベルの取り組みとなります。

### 2016年度活動

- 「損失と被害」の実態調査:バンドウンガン村の影響調査、住民からの聞き取り、アンケート調査、行政関係機関からのデータ(2000~2015年)収集、分析。
- 調査結果の報告:プカロンガン市関係機関、沿岸部コミュニティ代表に調査結果を報告。今後の取り組みと連携を提案。
- コミュニティエンパワーメント:バンドウンガン村の住民の意識向上を目的に、気候変動やバンドウンガン村で起きている影響について共有、理解するワークショップを開催。被害の実態の共有、住民や行政による対応策や今後必要とされる対策を参加型で議論。
- 代替生計手段の確保:元農家等を対象に、魚や海藻の養殖の導入、技術向上を目的とするワークショップを開催。また、海藻グループには、モニタリングや活動評価を継続的に支援。
- 2月24日、東京の気候変動シンポジウムにて、プカロンガン市の浸水被害について発表。
- バンドウンガン村の影響実態のショートビデオを作成。  
<http://www.foejapan.org/climate/lad/indonesia.html>

以下調査結果の一部抜粋

	社会	健康・衛生	日常生活	家屋	経済
損失	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宗教施設が利用できないことによる宗教的会合、教育の機会の喪失</li> <li>・遊び場(グラウンド)の喪失</li> <li>・緑地の喪失</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用不可能なトイレ</li> <li>・使用不可能な井戸</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・空き家</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲作農地(2011年頃からすべての農地が冠水)</li> <li>・果樹、菜園の喪失</li> <li>・家畜飼育環境の喪失</li> </ul>
被害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪の増加</li> <li>・学校の冠水</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皮膚病の増加(コミュニティの40%の住民に発症)</li> <li>・デング熱の増加。</li> <li>・十分な栄養を摂取できない乳幼児が増加。多くの子供が栄養摂取量最低基準値以下。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・収入減少</li> <li>・バイク等のメンテナンスコストの増加</li> <li>・家計の支出の増加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>傾きや床上浸水によるダメージ</li> </ul>	

※住民レベルの損失と被害コストの計算を行ったが、さらなる調査と分析が必要。  
※今後、行政レベルの損失と被害コストの計算も行う。



浸水の様子を語る地元住民



調査結果の報告会



住民のグループディスカッション



2月24日気候変動シンポジウムでの発表